

## 改善報告書

大学名称 東京慈恵会医科大学 (評価申請年度 2016 (平成 28) 年度)

## 1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針
	指摘事項	医学研究科医学系専攻博士課程の学位授与方針には、課程修了にあたっての修得することが求められる知識・能力などの学習成果を示されていないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	医学研究科医学系専攻博士課程の学位授与方針には、課程修了にあたっての修得することが求められる知識・能力などの学習成果の明示が不十分であった。 ※ディプロマポリシーに、課程修了時に求める知識・能力について記載がなかった。
	評価後の改善状況	中央教育審議会「3 ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に則り、大学院医学研究科医学系専攻博士課程の入学者受入れの方針 (アドミッションポリシー)、教育課程の編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー)、卒業認定・学位授与に関する方針 (ディプロマポリシー) それぞれの見直しを行った (資料 1-1-1)。課程修了までに修得が求められる知識・能力についてはディプロマポリシー内に明記し、本課程全体に関わる 3 ポリシーを共通カリキュラム (シラバス) の冒頭に記載するとともに、カリキュラムごとにディプロマポリシーと授業との関連性について記載するようにした (資料 1-1-2、3、)。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	資料 1-1-1. 大学院医学研究科医学系専攻博士課程 3 ポリシー (2017-2019) 資料 1-1-2. 共通カリキュラムシラバス p3~5 資料 1-1-3. 共通カリキュラムシラバス 2019 抜粋

<a href="http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/kyouiku/2019_hakasekyoutuu.pdf">http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/kyouiku/2019_hakasekyoutuu.pdf</a>					
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

No.	種 別	内 容
2	基準項目	4 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針
	指摘事項	医学研究科看護学専攻修士課程の教育課程の編成・実施方針には、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方が示されていないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	<p>*ディプロマポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>よき医療人としての能力を培った者</li> <li>高度の知識と技術を備えた看護専門職としての能力を培った者</li> <li>本大学院に2年以上在学し、教育目的に沿って指定された30単位以上を取得している者</li> <li>修士論文の審査及び最終試験に合格した者</li> </ol> <p>*カリキュラムポリシー</p> <p>対象を全人的に捉えることのできる人間的に優れたよき医療人を育成することを基本とし、看護職者の知識、技術、看護実践の統合力の成長を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>よき医療人のひとりとして看護学の立場から医療に貢献できる能力を養う</li> <li>高度な看護を実践し指導者となることができる能力を養う</li> <li>人々と協働して活動しマネジメントできる能力を養う</li> <li>看護実践から生じた課題を研究することができる能力を養う</li> <li>得られた知見を臨床や教育などの場で活用できる能力を養う</li> </ol>

<p>評価後の改善状況</p>	<p>2016年9月21日(水)研究科委員会(修士課程)にて、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの改定案について討議がなされ、2016年10月19日(水)研究科委員会(修士課程)にて審議され承認された。新たなディプロマポリシー、カリキュラムポリシーは、2016年11月11日学生に対して掲示するとともに配布し説明した。2017年度から学習の手引きに明記した(資料1-2-1)。2018年度は、「ディプロマポリシーの各到達目標」を学生に配布し、シラバスの各教科目にディプロマポリシーの到達目標と関連を明記した(資料1-2-2)。2019年度は『履修の手引き・シラバス』に、ディプロマポリシーと到達目標の関係と、共通科目および研究科目におけるカリキュラムマップを加えた(資料1-2-3)。また、全教科についての到達目標とディプロマポリシーとの関係を明記した。</p> <p>2019年度</p> <p>*教育目的 看護における専門分野を広く考究し、良き医療人のひとりとして看護学および看護実践における質の向上に貢献できる人材を育成できることを目的とする。</p> <p>*ディプロマポリシー(学位授与の方針) 本博士前期課程では所定の修業年限在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、修士論文の審査及び最終試験に合格し、下記の能力・姿勢を有するものに学位を授与する。</p> <p>1. 課題解決能力 看護実践において科学的根拠に基づいて課題を分析し、最善策を見出す能力</p> <p>2. 看護倫理を追求する姿勢 学祖高木兼寛の“病気を診ずして病人を診よ”の理念に従って</p>
-----------------	---

	<p>看護の対象者とのパートナーシップに基づいて協働し、対象者の最善の利益を追求する姿勢</p> <p>3. 多職種協働・地域医療連携能力 保健医療福祉システムの中で、学祖高木兼寛の“医師と看護師は車の両輪の如し”の理念に従って看護の専門性を活かし多職種と連携・協働する能力</p> <p>4. リーダーシップ システム改善に向けてメンバーの力を活用し、自ら組織を主導する能力</p> <p>5. 国際的視野から看護を考える能力 国際的視野から日本の看護の特性を理解し、看護を考える能力</p> <p>*カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針） ディプロマポリシーを達成するために、以下の方針に基づき教育課程を編成する。</p> <p>1. 課題帰結能力を育成するために、「看護研究方法」を共通必修科目として、「医療統計」を共通選択として1年次に、「感染防御論」を共通選択として2年次に配置している。また、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」において修士論文を全学生に課している。さらに、専門科目で強化している。</p> <p>2. 看護倫理を追求する姿勢を育成するために、「看護倫理特論」「研究倫理特論」を共通必修科目として、「看護理論特論」を共通選択として1年次に配置し、「看護歴史学」を共通選択で2年次に配置している。さらに専門科目で強化している。</p> <p>3. 多職種協働・地域医療連携能力を育成するために、「保健医療システム論」「看護管理学概論」を共通選択科目として1年次に配置している。さらに専門科目で強化している。</p> <p>4. リーダーシップ能力を育成するために、「医療者教育論」を共通必修科目として、「看護教育特</p>
--	--

	<p>論」を共通選択科目として 1 年次に配置している。さらに、専門科目で強化している。</p> <p>5. 国際的視野から考える能力を育成するために、「国際医療論」を共通科目として 2 年次に配置している。さらに、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」で強化している。</p> <p>*アドミッションポリシー (入学者に関する受入方針)</p> <p>本前期課程のカリキュラムを修得し、修了時に求められる能力を達成できる学生として、入学時に以下の人を求めている</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護基礎教育を受け、専攻分野における基礎知識を有している者</li> <li>2. 看護における課題意識を持ち、学修・研究する基礎能力がある者</li> <li>3. 将来、看護実践の場あるいは教育や研究の場で貢献する意志のある者</li> </ol>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>資料 1-2-1 2017 年度 学習の手引き p 5-6.</p> <p>資料 1-2-2 2018 年度 履修の手引き・シラバス p 1-2. p 35</p> <p>資料 1-2-3 2019 年度 履修の手引き・シラバス p 1-2. p 4-5. p 37.</p> <p><a href="http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/pdf/2020_zenki_shirabasu.pdf">http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/pdf/2020_zenki_shirabasu.pdf</a></p>
	<大学基準協会使用欄>
	検討所見
	改善状況に対する評定
	1 2 3 4 5

No.	種 別	内 容
3	基準項目	4 (4) 成果
	指摘事項	医学研究科において、医学系専攻博士課程及び看護学専攻修士課程ともに、学位論文審査基準が明文化されていないので、課程ごとに『シラバス』、『学習の手引き』等に明記するよう、改善が望まれる。
	評価当時の状況	医学系専攻博士課程においては、学位論文審査

	<p>基準の明文化が不十分な部分があった。学位論文審査委員によって、評価基準が異なっていた。</p> <p>看護学専攻修士課程においては、学位論文審査基準を教学の説明時に口頭で説明していたが、シラバスに明文化していなかった。</p>
評価後の改善状況	<p>医学系専攻博士課程においては、学位審査基準の設定に関するワーキンググループの委員を大学院委員会委員より選抜し、2016年12月9日に改革案について協議した(資料1-3-1)。ワーキンググループで検討した内容を、大学院委員会で再協議した結果、新たに「学位論文審査基準」を設け、基準に準じた「学位論文審査評価表」を使用する運用へと2017年度学位論文審査より切り替えた。</p> <p>また、学位論文審査基準は、「学位申請の手引き」に記載することで、インターネット公開している(資料1-3-2、3、4、5)。</p> <p>看護学専攻修士課程においては、『シラバス』および『学習の手引き』平成29年度以降は、修士論文審査評価項目とし明文化した(資料1-3-6、7、8、9)。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>資料1-3-1 第一回 学位審査基準の設定に関するワーキンググループ記録</p> <p>資料1-3-2. 学位論文審査基準 (20181221 更新版)</p> <p>資料1-3-3. 学位論文審査評価表 (20181221 更新版)</p> <p>資料1-3-4. 学位論文審査手順 (20190401 更新版)</p> <p>資料1-3-5. 学位申請の手引き (20190425 更新版)</p> <p>資料1-3-6 2017年度 学習の手引き p 38</p> <p>資料1-3-7 2017年度 シラバス p 116</p> <p>資料1-3-8 2018年度 履修の手引き・シラバス p 136</p> <p>資料1-3-9 2019年度 履修の手引き・シラバス p144</p> <p><a href="http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/pdf/2020_zenki_shirabasus.pdf">http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/pdf/2020_zenki_shirabasus.pdf</a></p>	
<大学基準協会使用欄>	
検討所見	
改善状況に対する評定	<p>1            2            3            4            5</p>

No.	種 別	内 容
4	基準項目	5 学生の受け入れ
	指摘事項	医学部において、医学科では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率がそれぞれ 1.01、1.02 と高いので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	毎年、入学後に再受験のために退学する学生が存在したため、入学定員110名のところ、111名もしくは112名の入学を許可していた。 また収容定員に対する在籍学生数比率が1.02と高い状況であった。
	評価後の改善状況	2017年入試からは、定員110名に対して厳格に110名の入学を守ることとし、入学定員に対する入学者数比率は1.006まで改善した（資料1-5-1）。 収容定員に対する在籍学生比率は1.02と結果的に変化はないが、2年次の学修指導、3年次の口頭試験の改善により、1学年あたりの定員オーバーは解消されつつあり、今後は正常化に向かうと考えている。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 資料1-4-1 5年間の志願者、合格者、入学者_医学科	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	
改善状況に対する評価	1      2      3      4      5	

## 2. 改善勧告について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4 (3) 教育方法
	指摘事項	医学研究科医学系専攻博士課程において、研究指導計画が策定されていないので、研究指導、学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に進めるように是正されたい。
	評価当時の状況	医学研究科医学系専攻博士課程において、研究指導、学位論文作成指導についての研究指導計画の実施が不明瞭な部分があった。 ※研究指導スケジュール（教育プログラム、研究計画書・研究報告書・研究レポート）の存在を学生（出願者）宛に事前周知する資料がなかった。
	評価後の改善状況	履修評価に関連する「研究計画書」「研究報告書」「研究レポート」、研究指導計画について記載する「教育プログラム」の作成について、予め学生宛に明示できていなかったことから、その案内を大学院ガイドに明記した（資料 2-1-1）。本学の医学系専攻博士課程の教育は、論文作成法、研究倫理、各種研究法などの研究遂行に必要な基礎知識に関する教育を行う共通カリキュラムと、各科における専門教育を行う選択カリキュラムの二本立てで行われ、これらが機能的に融合されることで、教育の充実を図っている（資料 2-1-2、3、4）。学生にこの仕組みを良く理解させるために、両者のつながりを図式化したカリキュラムチャートを大学院ガイドに掲載し、入学オリエンテーション時に説明し周知した（資料 2-1-5、6）。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 資料 2-1-1. 大学院ガイド 2019 抜粋 資料 2-1-2. 研究計画書・研究報告書・研究レポートの作成案内 資料 2-1-3. 教育プログラム作成依頼 資料 2-1-4. 教育プログラム書式 資料 2-1-5. 共通カリキュラムの一覧(p15)と抜粋 資料 2-1-6. 上記の作成依頼を受けて作成された、選択カリキュラム(シラバス)の抜粋	

	<a href="http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/kyouiku/2019_hakasekyoutuu.pdf">http://www.jikei.ac.jp/jikei/finance/kyouiku/2019_hakasekyoutuu.pdf</a>				
	<大学基準協会使用欄>				
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5